

総論

満点	50点	目標得点	45点	試験時間	60分	偏差値	70
大問数	8	小問数	38				
【解答形式】		選択式	21/38問	記述式	17/38問	論述式	0/38問
【問題難易度】		C	0/38問	B	9/38問	A	29/38問
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問数は例年通りだが、設問数は大幅に9題減少（昨年度比）。
正誤選択が昨年と比べると3問増加したが、全般的に易化の傾向が続いている。
- 2：例年出題される世界史統一テーマ問題は「世界史の中の思想・宗教」。
2007年度は「人の移動と文化交流」、2008年度は「世界史の中の都市」、2009年度は「世界史の中の戦争」であった。
- 3：2007年度以降、易化の傾向。ケアレスミスは許されない。
問題が易しいため、高得点を取らないと合格ラインに到達できないと心得よ。

こんな力が求められる！

〔前年度合格最低点（3科目）〕126.0 ※偏差値法による修正後の得点（得点率63.0%）

〔前年度受験者平均点〕34.4 ※素点（得点率68.8%）

早稲田大学の場合、偏差値法を用い、受験者平均点=50%の得点（世界史の場合だと25点）に換算されるため、受験者平均点と同じ得点では合格ラインに達しないのである。つまり平均点+10%程度の得点を稼ぐ必要がある。加えて、文化構想学部の世界史は、近年易化傾向なので、平均点より15%以上を上積みした得点（すなわち83%以上）を稼ぐ必要がある。では、今年度の問題でどのような力を身につければ83%以上の得点に達するのかを考えていこう。

まず、上表の問題難易度で「A正答すべき問題」をすべて解答できたとしても38問中29問正解となり、約76%しか得点できない。そこで「B合否を分ける問題」を半分（4～5問）程度は解答できないと合格ラインに到達しない。つまり今年度の問題では33～34問以上（86.8%以上）を正答する力が必要である。特に今年度は易しい問題ばかりだったので、できれば90%以上を目標得点としたい。結論を言えば、早稲田文化構想学部合格を目指す者にとっては「世界史でケアレスミスは許されない」のである。

出題地域は、欧米関連（16問）・アジア関連〔古代西アジア・イスラーム（7問）、中国（6問）、東南アジア・インド（5問）、中央アジア・北アジア（4問）〕と幅広く、時代も古代～第二次世界大戦後（時事的なスリランカ内戦）まで出されている。まずは不得意分野を作らないこと、そして些末な知識にこだわることではなく、基本的事項をしっかりと定着させることを心がけよう。お茶ゼミの授業→復習→Weeklyテスト85点以上といった学習ペースを構築することが大事である。

【Ⅰ】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 8/60 分
出題分野・テーマ 世界史の中の思想・宗教（先史時代の精神文化とユダヤ教成立）	
出題形式 選択式（語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1～5：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期①1, 4回 ・冬期講習「イスラーム史Ⅰ」	

●本大問の特徴・概要

一問一答式で解答できる易問。即答すべき問題。

●注目すべき小問

設問4（A：正答すべき問題）

「救世主」と解答しても間違いではないが、やはり「メシア」と解答したい。

【Ⅱ】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 6/60 分
出題分野・テーマ 中世のキリスト教史	
出題形式 選択式（正誤判定）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1～4：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・5月期1～4回	

●本大問の特徴・概要

設問2と3の正誤判定問題はセンター試験レベル。

●注目すべき小問

設問2（A：正答すべき問題）

選択肢ウは、「ウルバヌス2世」が誤り。「カリクストゥス2世」が正しい。カリクストゥス2世はやや細かい知識だが、ヴォルムス協約が1122年であること、そしてウルバヌス2世（位1088～1099年）がクレルモン公会議（1095年）で十字軍を提唱したことは当然知っているべき知識である。

設問3（A：正答すべき問題）

選択肢イは、「二院制議会」が誤り。「三部会」が正しい。もちろん、フィリップ4世はフランスの中央集権化を進めたカペー朝の王で、聖職者への課税問題から教皇ボニファティウス8世と対立した。そして1302年に三部会を初招集して国内意見をまとめ、1303年にアナーニ事件を起こして教皇を弾劾した。さらに1309年には教皇クレメン5世を南仏のアヴィニオンに強制移転させた（「教皇のパピロン捕囚」の開始）。

【Ⅲ】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 6/60 分
出題分野・テーマ イスラーム史	
出題形式 選択式（正誤判定）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1～4：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・4月期4回 ・冬期講習「イスラーム史Ⅰ」	

●本大問の特徴・概要

2007年度・2008年度も、ほぼ同様なイスラーム史が出題されている（2009年度はティムール朝とムガル帝国）。今年度の設問1・2のようなイスラーム用語は頻出（2007年度はイスラーム法＝シャリーア、2008年度は人頭税＝ジズヤ）である。

●注目すべき小問

設問3（A：正答すべき問題）

選択肢イは、「黒人奴隷兵」が誤り。「トルコ系奴隷兵」が正しい。中央アジアから東部イランに成立したサーマーン朝（イラン系、875～999年）の支配下、トルキスタンのトルコ系住民のイスラーム化が進展するとともに、騎馬技術に優れた彼らはマムルークとして各地のイスラーム王朝に供給されることになる。こうして9世紀以降、マムルークはイスラーム諸王朝の軍事力の中核を担った。

設問4（A：正答すべき問題）

選択肢アは、「スルタン」が誤り。「大アミール」が正しい。スルタンの称号はセルジューク朝に始まる。

選択肢イは、「シーア派」が誤り。「スンナ派」が正しい。また「アッバース朝のカリフを廃止」していない。

選択肢ウは、ファーティマ朝はシーア派（イスマーイール派）なので、アッバース朝（スンナ派）のカリフの権威を認めず、建国当初よりカリフを称した。よって正文。

選択肢エは、アッバース朝滅亡後、カリフの子孫はエジプトのマムルーク朝に保護された。またアッバース朝の滅亡は1258年で、当時イスタンブルはビザンツ帝国の首都コンスタンティノープルであるから、カリフ位が移されるわけではない。

【IV】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 8/60 分
出題分野・テーマ 東南アジア・内陸アジアへの宗教伝播	
出題形式 選択式（正誤判定・語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：A 設問2：A 設問3：A 設問4：B 設問5：B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期②2回 ・4月期1～3回 ・6月期3回 ・冬期講習「中国周辺史」「イスラーム史I」	

●本大問の特徴・概要

内陸アジア史は 2007 年度以降、毎年出題されている頻出範囲。冬期講習の「中国周辺史」を必ず受講して総まとめをしておく必要がある。

●注目すべき小問

設問2（A：正答すべき問題）

「東南アジア初期のイスラーム国家」から解答を導ける。マラッカ王国は鄭和の南海遠征に協力し、明の朝貢国になった。

設問3（A：正答すべき問題）

大問【Ⅲ】の設問3解説を参照せよ。トルコ人のイスラーム化の進展がサーマーン朝期であることを理解していれば、結局、2問正解できることになる。

設問4（B：合否を分ける問題）

2010年度センター試験（第2問の問3）にほぼ同問が出題されている。センター試験の復習をしていれば「やった！」という感じの問題であった。選択肢エは、「16世紀」が誤り。「14世紀」が正しい。

設問5（B：合否を分ける問題）

問題文中で「第一次国共合作が実現したのと同じ年」（第一次国共合作の年号は「お茶ゼミ語呂合わせ冊子」で☆つき）とヒントが与えられている。日頃の学習において年号暗記も怠ってはならない。

【V】

予想配点	8/50 点	時間配分の目安	10/60 分
出題分野・テーマ	中国（北京）の宗教建築		
出題形式	選択式（語句選択）、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
設問 1	A	設問 2	A
設問 3	A	設問 4	B
設問 5 ①	B	設問 5 ②	A
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・4月期2回 ・6月期3回 ・夏期講習「現代史」「文化史」 ・12月期1, 2回		

●本大問の特徴・概要

見慣れない図版が並んでいて、初めは戸惑うかもしれないが、設問そのものは易しい。

図版 a が中国式の仏塔（玄奘が持ち帰った仏典などを収めた西安の大雁塔だと思われる）、図版 b がゴシック式のキリスト教会（北京の西什庫堂だと思われる）、図版 c がイスラーム教のモスクであることがわかればよい。ちなみに図版 d はチベット仏教の仏塔（北京の北海公園の白塔）。

●注目すべき小問

設問 4（B：合否を分ける問題）

イスラーム教を「回教」ということを想起できれば解答できる。また回族とは、イスラーム教徒の民族集団の1つで、現在は寧夏回族自治区・甘粛省・河南省・雲南省などを中心に中国全土に分布する。渡来したイスラーム教徒と漢民族との混血により歴史的に形成された民族であるが、言語・容貌は漢民族と同じである。

設問 5 ①（B：合否を分ける問題）

消去法で解答できる。ただし、図版 a が中国式の仏塔だと判断できないとならない。浜島書店の『新詳世界史図説』、第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』など主要な図説集には大雁塔は掲載されている。

【VI】

予想配点	8/50 点	時間配分の目安	10/60 分
出題分野・テーマ	16～19 世紀の欧米史（地図を使用した問題）		
出題形式	選択式（正誤判定・語句選択）、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 設問 1：A 設問 2：A 設問 3：A 設問 4：A 設問 5：A 設問 6：B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・ 5 月期 3 回 ・ 6 月期 1 回 ・ 7 月 1, 2 回 ・ 夏期講習「近代史」		

●本大問の特徴・概要

北極を中心とする北半球の地図が見つらいが、実際に地図が必要なのは設問 6 だけだと言える。ただし、2009 年度は北欧・北ドイツの地図が、2007 年度はやはり北極を中心とする地図が出題されていることに着目しておくべきだろう。

●注目すべき小問

設問 1（A：正答すべき問題）

選択肢アは、設問文中の「17 世紀」に相当しない。ロジャー=ベーコンは 13 世紀の人物。17 世紀の人物ならば、経験論（帰納法）の祖フランシス=ベーコン（1561～1626 年）である。

設問 2（A：正答すべき問題）

選択肢アの「ケネー」はフランスの重農主義者、選択肢イの「リスト」は 19 世紀ドイツの歴史学派経済学者、選択肢エは 19 世紀イギリスの古典派経済学者である。

設問 4（A：正答すべき問題）

「16 世紀半ば」「スペインの支配に反抗」「カルヴァン派」からオランダ独立戦争であることがわかる。したがって、オランダのカルヴァン派の呼称「ゴイセン」である。

設問 6（B：合否を分ける問題）

イタリア統一に際して、サルデーニャがフランスに割譲した土地は、サヴォイアとニース。ニースは地中海に面した地域なので、地図中の E には不適當。したがって解答はサヴォイアである。

【Ⅶ】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 8/60 分
出題分野・テーマ 第二次世界大戦後の宗教的対立	
出題形式 選択式（語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 設問 1：A 設問 2：B 設問 3：B 設問 4：B 設問 5：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・夏期講習「現代史」 ・10 月期 4 回 ・11 月期 4 回 ・冬期講習「イスラーム史Ⅱ」	

●本大問の特徴・概要

昨年度は第二次世界大戦後史が出題されなかったが、2007 年度・2008 年度ともに出題されているので、頻出分野であるといえる。また、今年度の出題は宗教問題に関する内容であったので、「難しい」と感じた受験生もいたかもしれない。この問題で「B：合否を分ける問題」を正答できるかが、合否のカギになると思われる。

●注目すべき小問

設問 2（B：合否を分ける問題）

旧ユーゴスラヴィアから独立した国家でカトリック教徒を中心とするのは、スロヴェニアとクロアチアである。

設問 3（B：合否を分ける問題）

IRA がアイルランド共和国軍であることがわかれば解ける。用語集では頻度①だが、お茶ゼミのテキストでは空欄となっている語句である。

設問 4（B：合否を分ける問題）

タミル人は南インドやスリランカ（セイロン島）に分布している。スリランカの住民の多くは、仏教徒のシンハラ人であり、少数派のタミル人が分離独立を求めて 1983 年以降内戦状態が続いた。2009 年政府軍が反政府組織の「タミル=イーラム解放の虎（LTTE）」を制圧して内戦終結した。

【Ⅷ】

予想配点 4/50 点	時間配分の目安 4/60 分
出題分野・テーマ ガンダーラ美術	
出題形式 選択式（正誤判定・語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：A 設問2：B 設問3：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期②2回 ・夏期講習「文化史」 ・冬期講習「イスラーム史Ⅱ」 ・直前特訓「世界史文化史完成（東洋文化）」	

●本大問の特徴・概要

文化史に関する出題は、多かれ少なかれ毎年出題されている頻出分野である。図版を用いた形式は昨年度も同様であった（昨年度の出題は19・20世紀の西洋絵画史に関する問題）。

夏期講習「文化史」および直前特訓「文化史完成」を受講して文化史を得点源にしよう。

●注目すべき小問

設問2（B：合否を分ける問題）

ガンダーラ美術がクシャーナ朝期に成立したことは、リード文からわかる。あとはクシャーナ朝の存続時代（1～3世紀）が理解できていればよい。直前特訓の「横のつながり」を受講すれば、おさえられる問題である。

選択肢アは、春秋時代末期（前6～前5世紀）。

選択肢イは、後漢末の黄巾の乱で184年。つまり2世紀の出来事。

選択肢ウは、630年。

選択肢エは、聖像禁止令で726年。

設問3（A：正答すべき問題）

リード文の「パキスタン北部」「ギリシア系」から、前3世紀半にセレウコス朝シリアから自立して中央アジアのアム川流域に成立したバクトリアが正解となる。